



DATA 口腔がんセンター

- 施設認定：地域がん診療連携拠点病院、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本口腔外科学会認定研修施設、日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医制度指定研修施設
- 資格：日本口腔外科学会認定口腔外科認定医1名、口腔外科専門医3名（指導医1名含む）、日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）2名、日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医（指導医）2名、口腔がんアルミノックス治療医2名、日本口腔科学会指導医1名、日本口腔内科学会指導医1名



▲口腔がんセンター

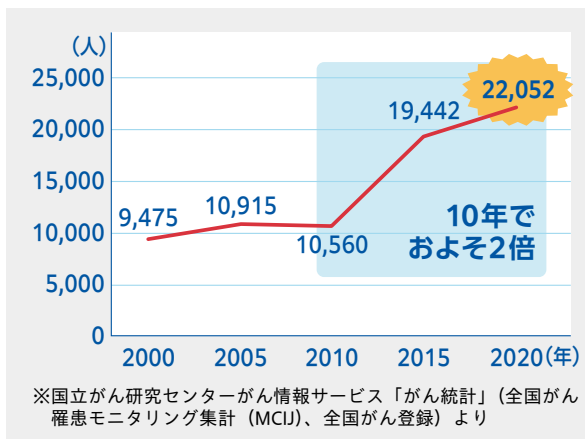
高度で専門的な治療ができる環境で 年間100例の口腔がん手術を実施

歯科大学附属病院である当院は、歯科診療部門が充実しています。歯科・口腔外科に加えて、全国でも数少ない、口腔がんに特化した「口腔がんセンター」があります。同センターには、日本口腔腫瘍学会認定の口腔がん専門医が2名在籍しており、年間100例の口腔がん手術を実施しています。

日本における口腔・咽頭がんの罹患数は、2000年の約9,500人から2020年には約22,000人へと増加しています（右表参照）。患者数の増加に伴い治療法も発展してきました。2012年に分子標的薬のセツキシマブ、2017年には免疫チェックポイント阻害薬のニボルマブ、2019年にはペムブロリズマブが、頭頸部がんの治療薬として追加承認されました。また、セツキシマブと光感受性物質とを組み合わせた新しい治療薬が登場し、

口腔がんの治療に新たな光「光免疫療法」

日本の口腔・咽頭がん罹患数の推移



2021年に光免疫療法が保険適用となりました。この治療法は手術、薬物療法、放射線療法、免疫療法の4大治療法に続くものとして注目を集めています。

第5のがん治療法を目指す 光免疫療法とは

光免疫療法は、がん細胞の増殖に関わるたんぱく質（EGFR）に結合するセツキシマブと、光に反応する色素IR700（光感受性物質）を結合させた抗体薬物複合体「セツキシマブサロタロカンナトリウム」を投与します。その後、患部にレーザー光を当てることで、がん細胞だけを破壊します。この治療法は、標準治療後に再発した場合など、一定の条件下で適応可能となります。

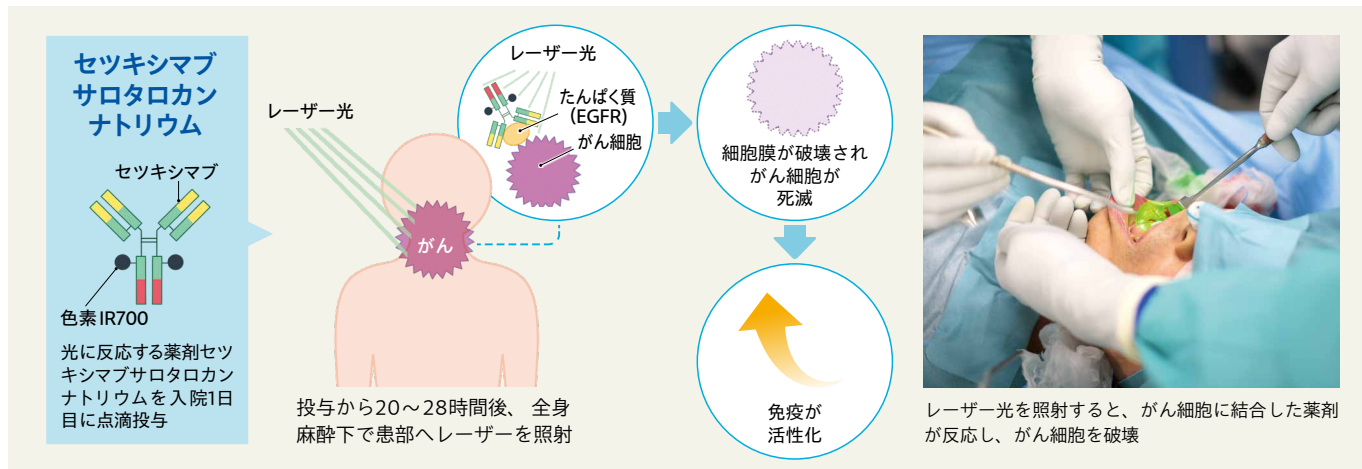
治療は入院して行います。1日目はセツキシマブサロタロカンナトリウムを点滴投与し、2日目（20～28時間後）に全身麻酔下で病変にレーザー光（波長690nm）を照射します。照射時間や照射方法はがんの部位や大きさによって異なります。組織内病変にはニードルカテーテルを深部の腫瘍に穿刺する「シリンドリカルディフューザー」を、表在性の腫瘍には照射面に対して垂直にレーザー光を照射する「フロントルディフューザー」を使って行います。



病変の縮小が視認できるなどの効果を実感

口腔がんセンター

■光免疫療法のイメージ



光免疫療法で使用する薬剤は、光に反応する性質を持つため、投与後に光線過敏症を引き起こすことがあります。このため治療後約1週間の入院では、直射日光を遮った部屋で過ごします。退院後も4週間は、日光に当たらないなどの光曝露対策が必要となります。

自然光だけでなく、病室や部屋の照明も可能な限り暗くして過ごしていただきますが、テレビやスマートフォンの閲覧程度でしたら問題ありません。

当院では2023年に光免疫療法の実施について院内承認を受け、2024年4月に1例目の治療を行いました。治療翌日から病変の縮小が視認できた症例もあり、臨床現場でその効果を実感しています。

また、光免疫療法はがん細胞を破壊するだけでなく、患者さん自身の免疫システムを活性化させるという二重の作用を併せ持ちます。壊れたがん細胞の中からがん抗原が放出され、残ったがん細胞に対しても、患者さん自身の免疫機能が働くことが期待されます。

ただし、現時点では全国的にも症例数が限られており、さらなる有効性と安全性の検証が求められます。現在、全国の頭頸部がん・口腔がんの専門医と情報共有を図りながら、より質の高い治療の提供に向けて取り組んでいます。

地域の皆さまと口腔がんの早期発見を目指す

手術が可能な口腔がんの5年生存率は、ステージⅠ・Ⅱの早期がんでは90%程度です。しかし、ステージⅣでは約70%

と大きく低下します（当院症例・2018年4月～2022年3月）。

口腔がんの治療は、容顔の変化や感覚麻痺、咀嚼・嚥下障害などの後遺症が伴うこともあります。治療の遅れがQOLの低下に影響するため、早期発見・早期治療が非常に重要となります。貴院の患者さんにも、自治体などが実施する口腔がん検診の受診をご案内いただけますと幸いです。また、診療の際に、前がん病変といわれる白板症や紅板症、粘膜のただれなどの異変にお気づきの際は、ご遠慮なく当院の歯科・口腔外科へご相談ください。

今後も、地域の医科・歯科医療機関の皆さまと連携を深めながら、患者さん一人ひとりに丁寧な診療を提供できるよう努めてまいります。

Doctor's profiles



口腔がんセンターセンター長
歯科医師 野村武史 Takeshi Nomura

出身地 東京都

趣味 音楽鑑賞

歯科医師になったきっかけ

学生時代に生化学で口腔がんの細胞を培養したことで、口腔がんに興味を持った



口腔がんセンター
歯科医師 関川翔一 Shoichi Sekikawa

出身地 新潟県

趣味 登山

歯科医師になったきっかけ

歯科医師（口腔外科医）である父の影響で、口腔内を広く診察できる口腔外科に憧れた

医療機関の先生方へ

市川総合病院 初診事前予約申込書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、右記へお尋ねください。

患者支援センター 地域医療連携室

Tel 047-322-0151(内線2214) Fax 047-324-8539

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時

土曜日：午前9時～12時（第2土曜日を除く）